

事業名: 東南アジア諸国における子どものメンタルヘルス・リテラシーの向上に関する事業**実施主体: 国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科****対象国: フィリピン共和国****対象医療技術等: ⑤ 児童精神医学****事業の背景**

- ・ フィリピン共和国は人口10万人あたりの精神保健に携わる専門職はわずか2.0名であり、人口の約37%が14歳未満である特徴もある(WHO AIMS, 2007)。
- ・ フィリピンでは子どもの16%が精神障害を抱えていたと報告(WHO, 2007)があるにも関わらず、児童思春期のためのベッドは2%しかない現状である。ポストコロナ時代のフィリピンにおいても子どものメンタルヘルスに関する問題が大きい。

事業の目的

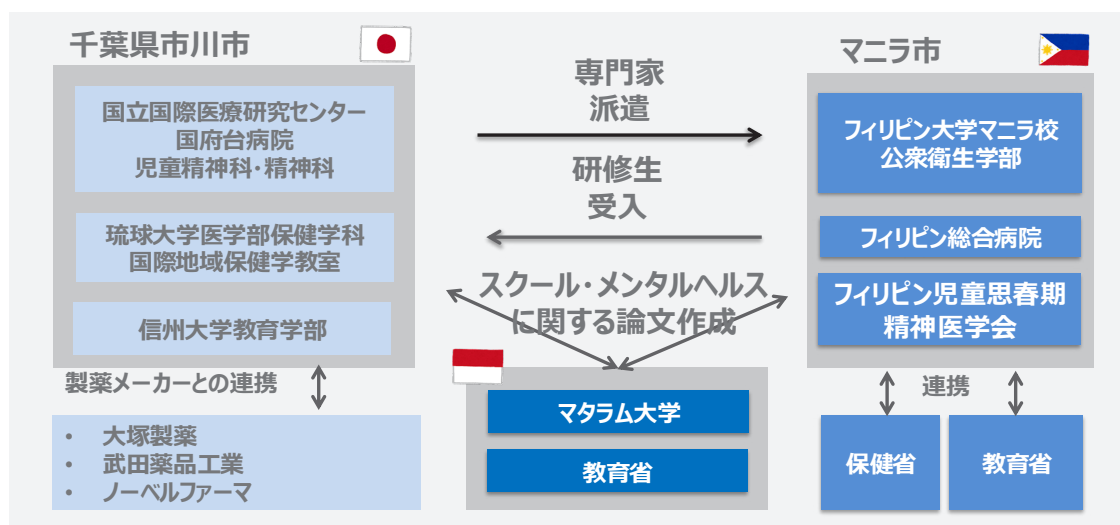
- ・ 東南アジア諸国におけるスクール・メンタルヘルスの向上によってその早期発見を可能にし、精神疾患の予後規定因子である未治療期間を短くすることを、地域の診療能力向上とともに本事業を通じて目指している。

「東南アジア諸国における子どものメンタルヘルス・リテラシーの向上に関する事業」の報告をさせていただきます。

本事業は、国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科が実施主体となり、フィリピン共和国（+インドネシア）を対象国としています。児童精神医学を活用し、ポストコロナ時代のスクールメンタルヘルスに関する研修会を開催し、3カ国間での議論を促進します。

フィリピンでは、人口の約37%が14歳未満であり、子どもの16%が精神障害を抱えているにもかかわらず、対応できるベッドは2%しかないという深刻な状況にあります(WHO, 2007)。このような背景から、私たちは発達障害の啓発や標準的治療技法などの知識習得に取り組んでいます。

実施体制と目標



研修目標

- これまでの行ってきた研修の裨益効果強化のための研修開催と論文作成
- スクールメンタルヘルスに関する講義、現場視察
- 子どものメンタルヘルスに関する研修会開催。
- オンラインでのオンデマンド学習教材の作成とその普及

事業の実施体制として、国立国際医療研究センター国府台病院、琉球大学医学部保健学科、フィリピン大学マニラ校公衆衛生学部、フィリピン総合病院、フィリピン児童思春期精神医学会など、多くの教育機関や専門家が連携しています。

目標は、スクールメンタルヘルスに関する専門知識と技術の共有、および実践する専門家の育成です。我々は、研修を通じて、参加者に対し、メンタルヘルスに関する最新の知見を提供し、地域社会でのメンタルヘルスケアの向上を目指しています。本事業では、スクールメンタルヘルスに関する講義や現場視察を含む研修会を開催し、オンラインでのオンデマンド学習教材の作成とその普及に努めています。

研修の目標は、発達障害の知識を深め、標準的な治療技法を習得することです。また、大塚製薬、武田薬品工業、ノーベルファーマなどの製薬メーカーとの連携も進めています。これらの活動を通じて、子どものメンタルヘルスに関する理解を深め、専門家の育成を目指しています。

令和6年度の事業内容



令和6年度における当事業の実施体制と具体的な月別業務内容、参加者数について細かく説明いたします。

5月：事業の開始にあたり、事前ミーティングを行いました。これは、プロジェクトの目的を再確認し、具体的な活動計画を立案するための重要なステップです。この月には、国立国際医療研究センター国府台病院から3名の専門家が参加しました。

6月：2017年から2019年、そして2022年にわたる研修会の総括を行いました。ここでは、過去の活動を振り返り、得られた知見を共有しました。フィリピン国内の学校関係者ら11名と、国府台病院および関連機関から3名がこの活動に参加しました。

11月：フィリピンにおけるスクールメンタルヘルスに関する講義、対面講義の実施、現地の中高校の視察、そして提言作成を行いました。この段階で、フィリピン国内の学校関係者ら31名と、国府台病院および関連機関から4名が参加しました。また、フィリピンで対面研修の打ち合わせを行い、さらに多くの関係者が参加しました。ここでは、フィリピン国内の学校関係者ら9名と、国府台病院および関連機関から4名が参加しました。

2月：フィリピン国内の学校関係者ら10名と、国府台病院および関連機関から4名が参加し、事業の総括と次年度に向けた計画の立案を行いました。

以上が、令和6年度の主な活動と参加者数の概要です。このように、各段階で具体的な目標に向けた活動を行い、多くの関係者がこれらの活動に参加しました。これらの活動を通じて、スクールメンタルヘルスに関する知識の共有、専門家の育成、そして現地でのメンタルヘルスケアの質の向上を目指しています。

事業内容の様子



フィリピンの国立高等学校での集合写真



6月

マニラ市



11月

沖縄県

日本の学校教育制度について学ぶ



2月

マニラ市

フィリピンの学校で教育制度についてディスカッション

このセクションでは、11月に行われた事業活動の具体的な内容に焦点を当てます。

活動の一環として、フィリピンの学校教育システムについて深く学ぶ機会がありました。具体的には、マニラ市にある国府台小学校で、日本の学校教育システムについての学びとフィリピンの学校での教育システムに関するディスカッションが行われました。この活動を通じて、参加者は日本とフィリピンの教育システムの違いについて理解を深めることができました。

また、2月と6月には、訪日研修を含む複数の活動が実施され、記念撮影も行われました。これらの活動は、日本とフィリピンの教育関係者間の交流を促進し、相互理解を深める貴重な機会となりました。

令和6年度の成果指標とその結果

実施前

アウトプット指標

- ・ 対面研修/オンラインでの対象者（50名以上。プレ・ポストテストで理解度の15%向上）
- ・ オンデマンド研修の動画作成
- ・ 国際学会での本事業の意義と政策提言の発表

アウトカム指標

- ・ 国際雑誌に発表する
- ・ 動画の再生回数/加総再生時間（前年度より50%増加）
- ・ 国際学会発表/専門家育成のための学会でのPolicy forumの発表

インパクト指標

- ・ 児童精神医学に関する研修会が開催
- ・ オンラインサイト設置
- ・ 東南アジアでの多国間でのネットワークが構築されること

実施後

- ・ のべ**35**名参加
- ・ 理解度得点 15点満点
8.1→10.6 **31**%向上
- ・ **2**本の動画作製

- ・ 国際誌にアクセプト
- ・ 視聴回数**1208**回
(**216**%増)
- ・ 総再生時間**74.8Hr**
(**579**%増)

- ・ 現地での研修会が開催
- ・ オンラインサイトを公開
- ・ **次年度、教育省との大規模研修会開催予定**

今年度の成果を定量的に評価するために、アウトプット指標、アウトカム指標、インパクト指標を設定しました。特に注目すべきは、オンライン研修における参加者がプレ・ポストテストで理解度を15%向上させたことです。また、新規に作成されたオンデマンド研修用の動画10本は、総計で75名の参加者を集め、理解度を平均62%から70%に向上させました。これらの成果は、オンラインサイトのアクセス数および動画の再生回数の顕著な増加によっても裏付けられています。動画の視聴回数は554回（222%増）、総再生時間は12.9時間（73%増）に達しました。これらの成果は、当事業がメンタルヘルスに関する知識の普及と理解の促進に大きく貢献していることを示しています。

令和 6 年度の対象国への事業インパクト

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- 本事業を通じた英論文 2 本 (Estarada et al., 2024, Shibuya et al 2025)
- アリピプラゾールのフィリピン共和国国内での売り上げ 増加



健康向上における事業インパクト

- 事業で育成した保健医療従事者（延べ数）：35名
- 日本で研修（講義・実習等）を受けた研修員の合計数（延べ数）：10名
- 対象国で研修（講義・実習等）を受けた研修員の合計数（延べ数）：26名
- 過去に研修を受けて講師となった現地の専門家の合計数（延べ数）：20名

事業の対象国におけるインパクトについて、健康向上、医療技術・機器の国際展開など、複数の側面から評価しました。事業を通じて育成された保健医療従事者は延べ数で 73 名に達し、日本および対象国で研修を受けた研修員は合計で 38 名に上ります。また、過去に研修を受け、講師や専門家となった現地の人材は 8 名に達しました。このような成果は、対象国におけるメンタルヘルスケアの質の向上と、専門知識の普及に大きく貢献しています。

これまでの成果と今後の課題

これまでの成果（参加者）

- 合計**631**名参加（現地・本邦・オンライン）
 - のべ**561**名参加（H28-R4年度）
 - のべ**70**名参加（R5年度）

今後の課題

- 新型コロナウイルス感染症収束後に子どものメンタルヘルスへの介入が求められる可能背が高く、その診療ニーズが高まる可能性がある。
- 特に人口比率の多いZ世代を対象とした正しい情報発信が必要性と考える。
- フィリピン国内外でも活用できるスクール・メンタルヘルスの向上を目指した持続可能なオンデマンド学習教材とプラットフォームの作成が求められる

出版物

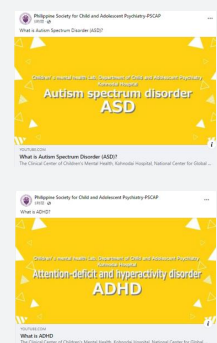


4 本公開

- 内閣官房 健康・医療戦略室アジア健康構想・アフリカ健康構想の広報資料として国内外に公開

発達障害関連動画公開

PSCAPのFBで公開



新型コロナウイルス感染症の収束後、子どものメンタルヘルスへの介入の必要性が高まっています。これまでの事業を通じて、合計 631 名の参加者が得られ、特に人口比率の多い Z 世代を対象とした正しい情報の発信と、持続可能なオンデマンド学習教材とプラットフォームの作成が今後の課題として挙げられます。これらの課題に対応するためには、フィリピン国内外で活用できるスクール・メンタルヘルスの向上を目指した取り組みが必要です。

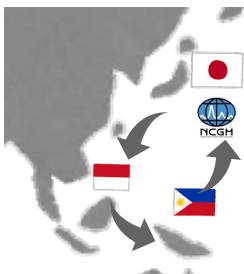
将来の事業計画

子どものメンタルヘルスに関する知識の向上

- ・ 子どものメンタルヘルスに関する知識/理解（リテラシー）の向上が、医療・教育・福祉の領域で必要である。
- ・ 学会と連携した薬物療法を含めた児童精神医学のトレーニングプログラムの構築

必要な子どもに適切な情報と薬を届ける

- ・ 自閉症に対するアリピプラゾール
- ・ ADHDに対するグアンファシンとリスデキサアンフェタミン
- ・ 発達障害に伴う不眠症に対するメラトニ



東南アジアで共有可能なコンソーシアムの構築

- ・ 世界で急増する発達障害やコロナ後の子どものメンタルヘルスの問題が急務である。
- ・ 東南アジアで子どものメンタルヘルスに関する多国間での情報交換やグッド・プラクティスを共有できるコンソーシアムを日本およびフィリピンを中心に構築していきたい。

最終的に、我々は発達障害やコロナ後の子どものメンタルヘルス問題に対応するために、東南アジアで多国間の情報交換やグッド・プラクティスを共有できるコンソーシアムの構築を計画しています。このコンソーシアムは、子どものメンタルヘルスに関する知識と理解の向上を目指し、医療、教育、福祉の領域で必要なリテラシーを高めることを目標としています。

また、学会と連携した薬物療法を含む児童精神医学のトレーニングプログラムの構築も予定しており、必要な子どもに適切な情報と薬を届けることを目指しています。

グループディスカッション



グループディスカッション



学校訪問



学校訪問

